

石川県における本年度の病虫害防除指針

清 水 昌 保

(石川県庁農業改良課)

1 種籾消毒 水銀製剤1,000倍液に6~12時間浸漬。
 2 苗代初期消毒 播種7~10日後、落水して水銀製剤1,000倍液坪当5合灌注、特に保温折衷苗代では除紙直後、灌水前に水銀製剤1,000倍液又は水銀乳剤2,000倍液を坪当り2合の割合に撒布し浅水灌水する。
 3 苗代中期のキリウジカガンボ、ケラ等の害虫防除にはデールドリン粉剤反当3疋撒布。ユリミミズ防除にはデリス粉(ロテノン2%)坪当8匁(ロテノン4%の場合4匁)散布。
 4 苗代末期消毒は苗取り5~7日前迄に病害(対象、苗イモチ病、葉節イモチ病、ゴマハガレ病)、害虫(対象、ドロオイムシ、ハモグリバエ、ヒメハモグリバエ、アブラムシ、ツマグロヨコバイ)を兼ねて水銀乳剤2,000倍液にホリドール乳剤又はEPN乳剤を1斗に12cc(1,500倍)加用して坪当り2合撒布する。
 5 本田病虫害 葉イモチ病; 早期発見につとめ発病を見たら直ちに水銀粉剤(水銀0.25%)反当3kg又は水銀乳剤(水銀3%)1,500倍液又は水銀水和剤(水銀10%)2,000倍液、水銀錠剤(フミロン錠、水1斗に3~4錠)反当5~6斗撒布する。
 6 早稲のクビイモチ病 出穂直前(走り穂出初め頃)水銀粉剤反当3kg、又は水銀乳剤2,000倍液に展着剤加用反当5~6斗撒布。
 7 中晩稲のクビイモチ病 早稲同様出穂直前、水銀粉剤又は水銀乳剤撒布、更に穂揃後2~3日(第1回撒布後10日)水銀粉剤反当4kg、又は水銀乳剤(2,000倍液に展着剤加用)反当7~8斗撒布し、枝梗イモチ病、節イモチ病をも対象に防除する。
 8 小粒キンカク病 7月中・下旬、水銀粉剤反当4~5疋を株元に撒布する。早生の場合は出穂のクビイモチ病と同時防除を行う。
 9 イネモンガレ病 激発地帯では7月上旬(侵入期)と7月下旬(株内進展期)にモンゼット粉剤反当4kg、又はモンゼット水和剤2,000倍液反当7~8斗撒布。1回撒布の場合は7月中旬(7月15~20日)モンゼット粉剤又はモンゼット水和剤撒布。
 10 シラハガレ病 適当な防除法が確立されていないので耕種的防除に重点をおき常発地帯では洪水、暴風雨、台風後、銅水銀粉剤又は水銀粉剤を反当3~4kg、撒布して蔓延を防止する。
 11 ニカメイチュウ 早生地帯では1化期に2回防除(6月上旬と下旬)、2化期に1回防除(8月上旬)で計3回防除。中・晩稲地帯では1化期に

1回防除(6月下旬)、2化期に1回防除(8月上旬)で計2回防除。中間地帯では1化期に1回防除(6月下旬)、2化期に1回防除(8月上旬)で計2回防除。但し保温苗代で早植の処は1化期2回防除(6月上旬・下旬)。

◎ 1化期の第1回防除は発蛾最盛日より7日目中心にドロオイムシ併殺の場合はBHC3%粉剤反当3kg撒布。ハモグリバエ併殺の場合はホリドール粉剤又はEPN粉剤、PB粉剤反当3kg、又はホリドール乳剤、EPN乳剤1,500倍液反当4斗撒布。
 ◎ 1化期第2回防除は発蛾最盛日より2日目中心にホリドール粉剤、EPN粉剤、PB粉剤又はホリドール乳剤、EPN乳剤1,500倍液反当4斗撒布する。
 ◎ 1化期1回防除は発蛾最盛日より15日中心にホリドール粉剤、EPN粉剤、PB粉剤反当3kg、又はホリドール乳剤、EPN乳剤1,500倍液を反当4斗撒布。
 ◎ 2化期防除は発蛾最盛日より7日以内、ツマグロヨコバイ併殺の場合はホリドール粉剤、EPN粉剤、PB粉剤反当5kg、又はホリドール乳剤、EPN乳剤1,000倍液反当7~8斗撒布する。その他の場合はBHC3%粉剤反当5kg撒布する。
 12 イネクロカメムシ 越冬成虫防除; 6月下旬・7月上旬、BHC3%粉剤を反当4kg撒布。幼虫期防除; 8月上旬ニカメイチュウ2化期防除と併施。(EPN粉剤又はホリドール粉剤反当5~6kg撒布)。
 13 ウンカ セジロウンカ及びトビイロウンカは早期発見につとめBHC3%粉剤反当3~4kg撒布。ツマグロヨコバイ併殺の場合はマラソン粉剤反当3~4kg撒布。
 14 イネハモグリバエ、イネヒメハモグリバエ; 6月上・中旬、ホリドール粉剤、EPN粉剤、PB粉剤反当3kg撒布。
 15 イネカラバエ; 2化期7月中旬、デールドリン粉剤反当4~4.5kg、又はEPN粉剤反当4~4.5kg撒布。
 16 ドロオイムシ ニカメイチュウ1化期第1回のBHC3%粉剤により併殺する。単独防除の場合は6月上・中旬、BHC3%粉剤反当3kg撒布。
 17 イネアオムシ 7月中・下旬BHC3%7月中・下旬BHC3%粉剤反当3kg撒布。
 18 イネツトムシ 7月下旬・8月上旬 DDT5%粉剤、又はBHC3%粉剤撒布する。